

津山市(中国ブロック)

【計画期間 25年4月～31年3月】

- ・近世～幕末：森忠政が吉井川と宮川の合流点を見下ろす鶴山を城地に選定し、「鶴山（つるやま）」を「津山（つやま）」と改め、築城に着手し、現在の街並みの基礎を築く。後に受け継いだ松平家によって街並みは発展していき、今尚優れた歴史的建築物が多く残されていることから「西の小京都」と呼ばれる。
- ・明治～昭和：明治9年に岡山県に合併された後、社会基盤の整備が進められ、現在の中心市街地が形成される。

【中心市街地を巡る状況】

- 複数の主要都市機能施設の郊外移転や大型商業施設の郊外立地、交通網の整備による生活行動圏の拡大などの影響を受け、中心市街地への来街者は減り続け、回遊性が低下し、歩行者通行量が減少している。
- 中心市街地の求心力の低下から、人口は減少し続けており、少子・高齢化の進行が早くなっている。

【中心市街地に関する指標の推移】

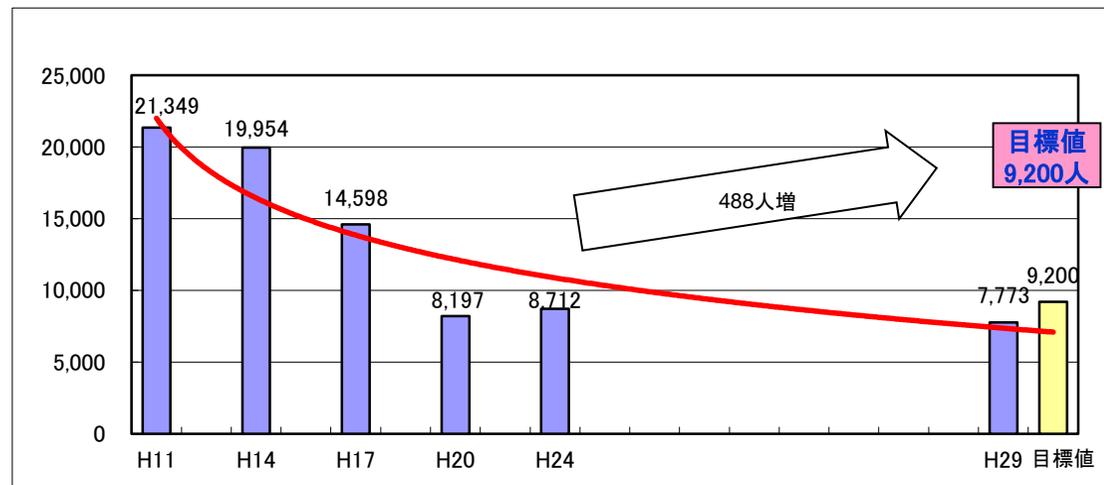
- 歩行者自転車通行量(平日・休日平均)
H11:21,349人 → H24:8,712人(▲59.0%)
- 中心市街地の居住人口
H14:8,847人 → H23:7,468人(▲15.0%)
- 歴史文化関連施設利用者数
H15:215,384人 → H23:176,508人(▲18.0%)

【目指す中心市街地像】

- 歴史・文化を感じる魅力あふれる街並みを形成し、高齢者に優しい、住みつづきたい「まち」を創る。

目標	指標	現況値	目標値
人が集い賑わいを感じる「まち」	歩行者自転車通行量(平日・休日の平均)	8,712人(H24)	10,000人(H30)
人が暮らしやすいと感じる「まち」	人口の年間社会動態平均	▲16人(H19～23)	±0人(H25～30)
歴史文化を感じる「まち」楽しむ「まち」	歴史文化関連施設利用者数	176,508人(H23)	197,000人(H30)

【中心市街地の歩行者自転車通行量の推移と数値目標】



■人が集い賑わいを感じる「まち」

⇒主要事業：①屋台村整備事業、②鶴山公園景観整備事業、③まちなかシネマ実証実験事業 など

■人が暮らしやすいと感じる「まち」

⇒主要事業：④サービス付き高齢者向け住宅等整備事業、⑤養護老人ホーム整備事業、⑥津山駅北口広場整備事業 など

■歴史文化を感じる「まち」楽しむ「まち」

⇒主要事業：⑦武家屋敷活用事業、⑧作州民芸館整備事業、⑨街なみ修景助成事業(町並保存対策事業) など

